

令和7年度小平市立小平第三中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率が全国の平均と比べて9.7ポイント高く、都の平均より7ポイント高い。観点別の平均においても全国と都の平均を全て上回る。基礎的な知識及び技能と思考力・判断力・表現力をある程度身に付けており、日々の授業に真剣に取り組んでいる結果であることが分かる。

課題

昨年度と同様、全国と都の平均を上回ってはいるものの、記述式の問題の正答率が35.3%と低い。自分の考えをまとめて、それを分かりやすく伝える文にする力や、必要な情報に着目してそれらを要約する力を身に付けられるようにする必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① 文章を理解するために基本となる語彙力を高めるために、単元ごとに授業中の意味調べや短文づくりに取り組む時間を増やす。
- ② 文学的な文章に多く触れる機会を設け、豊かな表現力を身に付けられるようにする。
- ③ 問題に対する問いの答え方や考え方に着目して、読み取る力を個に応じた指導を中心に進める。
- ④ 論理的な文章を書く力を高めるために、作文に取り組む時間を増やす。

【数学】

状況の分析

平均正答率が全国の平均と比べると9.7ポイント高く、都の平均より5ポイント高い。観点別の平均においても全国と都の平均を上回っていることから、基礎的な知識及び技能は身に付けている。また、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率も53.3%と高かった。

課題

全国や都の平均より高いものの、「関数」に関する問いの正答率が56.0%と低く、「図形」の証明の問いの正答率も44.2%と低かった。基礎的な力は身に付けてはいるものの、応用力が十分に身に付いていない生徒への指導を丁寧に行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① 50分の授業内で問題演習が必ずできるように、時間を確保する。
- ② 文章題などの問題において、教員の解説を聞くだけでなく、自分で考える時間を確保して、粘り強く取り組む習慣を身に付けることができるようにする。
- ③ スタディサプリを活用し、授業で学習した内容の理解を深められるようにする。

【理科】**状況の分析****課題**

本校の平均正答数 3.1 問は、全国と都の平均 (2.9 問) とほぼ変わらない結果となった。しかし、「知識・技能」を問う問題の正答率において全国平均を下回る問題はなく、理科の基礎的・基本的な知識を身に付けていることが分かる。

知識及び技能を活用して、実験の結果を予想したり、実験の結果を分析して解釈する問いの正答率が低い。基礎的な力は身に付けてはいるものの、応用力が十分に身に付いていない生徒への指導を丁寧に行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① スタディサプリを活用し、授業で学習した内容の理解を深められるようにする。
- ② 実験を行う際に、生徒が見通しをもって観察や実験を行うことができるような課題設定を行う。
- ③ 実験の結果によって起きる事象について、「なぜ、そのようなことが起きるのか」ということを、文章で表現する活動を増やす。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という問いに対して、81.7%の生徒が肯定的に回答していた。学習方法がある程度身に付けていることで、学力向上につながり、結果として各教科の調査で全国と都の平均を上回ることができたと考えられる。

「数学の勉強は好きですか」「理科の勉強は好きですか」という問いに対して全国平均を下回る結果となっている。基礎的な学力を身に付けてはいるが、主体的に学習に取り組めていない生徒が多いことが分かった。学んだこと日々の生活でどのように生きているのかを実感できるような指導の工夫が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

本校は昨年度、「GIGAスクール構想に伴い、教員がICTを有効に活用し、生徒の効果的な学習につなげる」を研究課題として取り組んでいた。外部講師を招き、ICT機器の効果的な活用についての説明をしていただいたり、ICT機器を活用した授業実践を紹介し合ったりした。その成果として生徒の学力は安定し、今年度の調査結果も全国平均を上回る結果となった。しかし、質問紙調査の結果から分かるとおり、主体的に学習に取り組んでいるとは言い難く、自発的に学習に取り組むことができるような授業づくりに励むとともに、興味・関心を高めることができる授業づくりを進めていく必要がある。